

平成30年度 第1回総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年8月22日(水) 午後3時30分
- 2 場 所 役場3階中会議室
- 3 出席者 当別町
宮司町長
当別町教育委員会
本庄教育長、武岡委員、寺田委員、小林委員、佐々木委員
- 4 説明員等 当別町
企画部長 江口 昇
企画課長 長谷川 道廣
総合企画係長 永井 敬洋
総合企画係 井田 恵理奈

当別町教育委員会
教育部長 山崎 一
学校教育課長 北村 和也
学校教育課参事 山谷 潤
社会教育課長 小出 真二
子ども未来課長 須藤 政信
学校教育課総務係長 玉木 聡美
- 5 傍聴者 2名

6 議事の要旨

(開会)

企画課長 : 時間前ではございますが、平成30年度第1回当別町総合教育会議を只今から開催いたします。

冒頭、ご案内申し上げますけれども、本日傍聴可能となっております。傍聴者がいらっしゃっておりますので、あらかじめご承知おき願います。次第に従いまして、次第の2番目、宮司町長よりご挨拶をいただきます。

(町長挨拶)

宮司町長 : 委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがと

うございました。前回の会議では、義務教育学校の在り方について、委員各位で議論を深めてきたところでありますけれども、いよいよ平成32年度の着工に向けて、具体的に一体型義務教育学校基本構想が策定をされました。今日はその、メインテーマがこの一体型義務教育の問題であると思っておりますけれども、それに加えて、つい最近学力テストの結果も出ましたので、数日前に色々数字を見せてもらいましたが、皆様と多少なりとも議論が出来ればいいのかなど考えております。課題の解決と定めた目標の達成に向けて、どういう方策がいいのかというヒントをしっかりとここで見出せるように皆さんと議論を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

(教育長あいさつ)

企画課長： それでは次第の3番、教育長よりご挨拶をいただきます。

本庄教育長： 皆様ごくろうさまでございます。町長はじめ、企画部の皆様には、今日は教育委員会案件でこの会を開いていただきまして、大変ありがとうございます。

一体型義務教育学校基本構想につきましては、すでに説明している部分も多くありますけれども、今日あらためて説明させていただいて、町長と意見交換をさせていただければと思っております。

また、配布資料ということで、何点か配布されておりますが、町長からも話がありましたように、めったにない機会でもありますので、そんな形で意見交換させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

企画課長： それではこれより議事に入らせていただきます。協議事項(1)「当別町一体型義務教育学校基本構想について」です。

はじめに事務局としまして、教育委員会学校教育課の方から資料に基づき説明をさせていただきます。

学校教育課参事： (資料により説明)

企画課長 : ただ今、「当別町一体型義務教育学校基本構想について」説明をいたしました。平成32年度の着工に向けて、基本構想の策定をいただいたわけでございますけれども、建設の基本設計や実施設計というところに今後入っていく形になりますが、そこに向けて、今の段階で、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っております。

それではお一人ずつご意見を頂戴したいと存じます。武岡委員からお願いいたします。

武岡委員 : 基本的にはこのような学校をぜひ作っていただきたいと強く考えております。ただ、当別の場合には、庁舎の建て替えだとか、西当別地区に一体型の一貫校を作ることも想定されておりますので、総額の中でお金の動き方は考えていかなければならないというのは理解しておりますが、私どもは、基本構想がなるべく万度に具現化されることを願っております。以上です。

企画課長 : 続きまして、寺田委員、お願いいたします。

寺田委員 : 教育委員会としてこの構想の最終決定をしているので、ここに書いてあること全て、全教育委員の思いや気持ちが入ったものになっているものと思っています。少人数で手厚くというところ、そのために先生を増やしていただきたいというところ、そのあたりを私は強く要望したいと思っています。以上です。

企画課長 : 佐々木委員、お願いいたします。

佐々木委員 : 平成29年から分離型の一貫教育を行ってまいりましたので、丸2年一貫教育を続けてきました。今回また、当別中学校の校舎の状態も非常に良くありませんので、早急に建て替えたいという思いもありますし、今回一体型義務教育学校ということで基本構想案も作りましたので、できる限り早くこの学校が建設されて、早く児

児童生徒が勉強できる環境になればと思いますので、ご協力いただきたいと思います。以上です。

企画課長 : 小林委員、お願いします。

小林委員 : 本構想案は委員会で何回も話をしたので、特にはないのですが、この学校ができることにより、一貫教育というものが9年間連続してこういった形で児童生徒が私たちの思い描く15歳の未来像になるかということが、一番わかりやすいますスタートの部分であるということを念頭に入れながら、今後様々に検討していくような形になればいいなと思っています。以上です。

企画課長 : 教育長お願いします。

本庄教育長 : 子供を育てる一つ的手段として、今考えられる最高の教育手段ということで、義務教育学校を考えました。予定通りに進める中で困難な部分もあるかと思いますが、一日も早く子供たちのためにそのような形での教育を実施していきたいと思っています。

なお、多額の財政執行が考えられますので、この辺は考えていろいろな交付金も活用しながら進めていかなければならない。中標津の計根別小中学校、白糠の庶路学園も自分の記憶に間違いなければ20億、30億の形の費用が掛かっているはずで、これは規模からいいますと、私たちが想定している400の半分以下の学校であります。私たちが作ろうとしている400規模の学校は、今、北海道ではありません。先駆的な形での実施になるかと思いますが、石狩管内のみならず、注目度の高いプランというか、計画でありますので、子供たちのためにぜひ成功させたいと思っていますので、関係各位、町長、ご協力よろしくお願ひしたいと思っています。

企画課長 : 各教育委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。町長から総じたご意見等をいただければと思います。

宮司町長 : その前に、質問があるのですが、2ページの独自基準設定のところですが、その前に、文科省の小学1～2年生が35人、小学3～6年生が40人、中学1年生になると道独自の基準で35人に落として、中学2、3年生がまた40人に戻しているというのは、これは何か意味があるのですか。本来、中学1年生も国は40人ですよね。道が35人に落としている。我々はそれに合わせた形になっているのですが、何か意味があるのでしょうか。

山谷参事 : これは、小学1年生と中学1年生というのが、ちょうど幼稚園から小学校、小学校から中学校へと、通っているシステムが大きく変わるところだということ、子供たちが非常に学習環境が大きく変わることに対する不適応が出やすい時期だということが昔から言われておりました。

宮司町長 : 中1問題ですね。

山谷参事 : はい。それに対応するという事で道が独自にここについては、やりましょうということで予算付けをしています。国としてはそこはしていないのですが。

宮司町長 : ただ、3ページを見ると、1～4年生が基礎期、5～7年生が充実期、8～9年生が発展期としているわけだから、中1問題をなくなる前提でこのように組んでいるのですよね。そうすると、新たな基準を作るのに、場合によっては、こっちに合わせた形でこの基準を作ってもおかしくないかなと思うのだけれども、我々はどうしても1～2年生、3～6年生全部左の文科省に合わせていますよね。例えば、独自基準では3～6年生まで35人となっています。例えば、小学5年生が今、36人になっていますよね。一人くるえば、また1クラスしかできなくなる。それであれば、むしろ、29人という上の基準に合わせても何ら大きな問題がないと思うが、どうしても何かできない理由があるのか。それから、中1問題というのは、なくすために一貫校をやっているわけだから、

そこは35人にして8、9年を40人にする必要はないような気がする。むしろ、1～4年生で何人、5～7年生で何人、8～9年生で何人ということで、少し下げておく方が、将来変えなくて済むのかなと。それが何か決定的に理由があつてだめだというものがない限りは、例えばの話ですが、1～4年生までは29人、5～7年生が30人、8～9年生は35人にしておくと、2クラスをずっと確保できるのではないかと思ったので、そのところを説明いただきたい。

本庄教育長： その通りですが、その通りにしますと、学級数が増えるとなりますと、当別町が独自に持ち出す教員のお金が飛躍的に増えていく可能性があります。

宮司町長： これは基準の設定だから、例えば30人にしておいて、61人になったときに、そうするともう決めた以上は3クラスにしなければいけないのか。それとも30人と31人でもなので、運営できるのではないのか。

本庄教育長： それは当別町の考え方です。

宮司町長： それであれば、できるだけ人数は少なくしておいて、あとは応用編でできるようにしておけば、余分な先生を雇わなくても済みますよね。

本庄教育長： ただ、教員を雇うときに、ある程度決めておかないと、すぐ雇えるものではないので。

宮司町長： 決めるのはいいのだけれども、人数を少し下げればというのが、私の提案です。

本庄教育長： 私も賛成です。

宮司町長 : それで本当に児童が増えて、2クラス3クラスにできたら、町にとっては万々歳でないですか。しかも、せっかくカリキュラムを9年でやるといってるのだから、そちらに合わせて決めることだって、もう一つ検討の余地があると思ったので、意見を言わせていただいた。

もう一つ、13ページで、中標津、そして白糖の学校を参考にされたということですが、本州の学校を参考とすることは全くなかったのですか。

山谷参事 : 参考資料1の「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について～子供たちの9年間の学びを支える施設環境の充実に向けて～」は本になっているものですが、過去に視察に行った学校はこの中に書かれている学校です。視察に行った成果も含めて、この調査研究協力者会議というところが出している本なのですが、その中に私共が見に行った学校のことが全部まとまっていますので、それを参考にしているというところで視察の成果もこちらに入っているという考えです。

宮司町長 : 道外に全然行っていないような感覚を受けたものなので。

山谷参事 : 1番はほぼ道外の資料なものですから。

宮司町長 : 大体何校くらい見たのですか。

山谷参事 : 5、6校くらいは見ました。

宮司町長 : 申し訳ないが、道は全国レベルから見て遅れているのですよ。道のこういうところを参考にしましたではあれだから、行ったところはここにきちっと書いた方が、それだけちゃんと調べたんだという、しかも本を見てやったというのはまったくだめで、見に行っ
てしっかり打合せをしてきていますよね。そのことをちゃんと明記しておいた方が、きっと説明を聞いた人が、随分やっているなど

ということがわかるかと思ったので、発言しました。

本庄教育長： 中標津と白糠は、費用のこともあったので、参考にさせていただきました。

宮司町長： それはいいと思います。ただ、それ以外のところも、東京だけではなくて、色々な所にも行かれましたよね。そういう学校に行って打ち合わせをしたところは名前くらい併記しておく、色々やったということがわかる。

企画課長： 今、町長から色々お話を頂戴しましたけれども、それに対して何か委員の皆様から意見・感想等がありましたらご発言願います。

(委員からの発言なし)

それでは、以上、(1)の協議については終了させていただきます。

企画課長： 大変長い時間ご協議いただきまして誠にありがとうございます。本日本日予定していた案件につきましては、以上でございます。

以上で、平成30年度第1回当別町教育総合会議を終了させていただきます。お疲れさまでした。